

A 話すこと・聞くこと部会 令和3年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 恵那市立恵那東中学校 小島 光太郎

1 今年度の研究方向

令和3年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎言語活動に魅力を感じながら、学習の意義を自覚して見通しをもち、主体的に学ぶ姿
- ◎目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、さらに別の場で生かそうとする姿

令和3年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成 ～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

研究仮説

- ・指導事項を効果的に身に付けさせるとともに、生徒が「話したい」「聞きたい」「話し合いたい」と思うようなテーマの設定を工夫することで、生徒が主体的に学習に取り組みながら、効果的に力を身に付けていくであろう。
- ・言語活動を通して生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化して描き、学習する意義を生徒に理解させながら見通しをもって学習させることで、焦点的な指導が可能となり、生徒は目的や場面に応じて適切に表現する力を身に付けるであろう。

(1) 指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と、岐阜県全域における「中国研ホームページを活用した情報共有」の推進
 - ・指導計画の段階で、指導事項と照らし合わせながら言語活動の完成形をより具体的に描く。
 - ・その中で生徒に「付けたい能力」を身に付けさせるために、どのような姿が見られたらよいのかという具体的な姿を明確にする。(黒板写真・授業資料の共有)
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
 - ・「話したい」「聞きたい」「話し合いたい」と思うような魅力あるテーマ設定を考える。さらに、そのテーマが、指導事項を指導するために適切なテーマであるかどうかを検討する。

(2) 指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・課題化までに、必然を感じさせるような効果的な導入の工夫をする。
 - ・効果的なモデル提示の在り方を工夫する。
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手だての工夫
 - ・うまくできない生徒ができるようになるための「苦手を克服するための手立て」はもちろん、得意な生徒がさらに上のレベルを目指せるようにするための「得意を伸ばす手立て」も考える。

(3) 評価の工夫

生徒自身が50分間での自己の高まりを実感することができる場の位置付け

- ①学習活動の中での自己の姿を客観的に知り、評価できるような音声言語教育の評価の在り方を工夫する。
(ビデオカメラやICレコーダー、タブレットといった機器の効果的な活用)
- ②生徒の習熟度を効果的に評価する「場」と「方法」を工夫する。